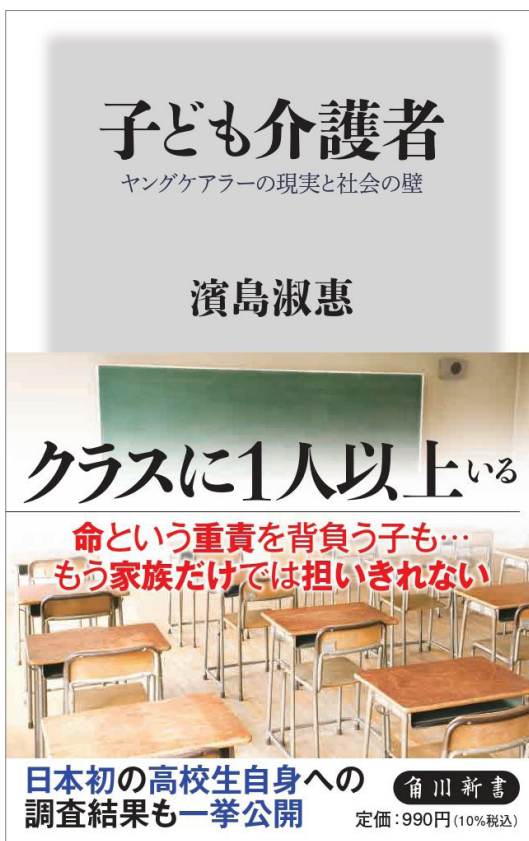


日本で初めて高校生への調査を実施 介護を担う子どもの実態とは



ヤングケアラーという言葉が報道で耳にするようになりました。祖父母の介護や精神疾患の親の感情サポート、障がいを持ったきょうだいの世話などを行う子どもたちのことです。それは「手伝い」という範疇を易々と超える過酷さです。小学生のときから介護をしている、1日8時間ケアをする、過労で学校では気絶するように寝てしまう……彼らはこれまでほとんど気づかれていませんでした。

著者は2016年に日本で初めて、当事者である子ども（高校生）の調査を行い、実態を明るみに出しました。NHK「クローズアップ現代+」などにも出演するこの分野の第一人者で、当事者に寄り添いながら研究を続けてきました。

「かわいそう」という言葉ではひとくくりにはできない、多様なヤングケアラーたちの実態を伝え、本当に必要な支援のあり方を探ります。



濱島淑恵（はましま よしえ）

大阪歯科大学医療保健学部教授。1993年、日本女子大学人間社会学部社会福祉学科卒業、99年、同大学院人間社会研究科博士課程後期満期退学。2017年、金沢大学で博士（学術）を取得。専門は高齢社会における

介護、家族、ワークライフバランスなど。20年にはヤングケアラーたちの集い「ふうせんの会」を有志とともに立ち上げた。2021年度の神戸市こども・若者ケアラー支援アドバイザー、大阪市ヤングケアラーPTメンバーを務めている。著書に『家族介護者の生活保障 実態分析と政策的アプローチ』（旬報社）。

濱島淑恵 著

子ども介護者 ヤングケアラーの現実と社会の壁

角川新書／定価 990 円（税込）

発行 株式会社 KADOKAWA

〒102-8177 東京都千代田区富士見 2-13-3

ISBN 978-4040822846